

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

3月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ

インフルエンザ：9,009件（前月比0.9、前年比13.0）でした。昨年の12月から本年度の2月まで連続して増加していましたが、3月は減少に転じました。今後は漸減しながら収束していくものと推測されます。前年比は13.0と著しく高値ですが、これは例年よりも流行期が遅くずれた結果を表しています。

小児科定点

（全体傾向）

報告数は13,364件（前月比0.93、前年比3.12）であり、インフルエンザ9,009件（前月比0.9、前年比13.0）、感染性胃腸炎2,528件（前月比1.0、前年比1.1）が大きく占めています。流行性耳下腺炎408件（前月比1.6、前年比4.2）、伝染性紅斑263件（前月比0.9、前年比20.2）が依然として例年より高い値で推移しており、今後の発生動向に注意が必要です。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症：報告数は141件（前月比0.6、前年比1.1）。昨年の12月をピークとして以後は連続して減少しています。今後は例年並に漸減しながら収束していくものと推測されます。
2. 咽頭結膜熱：報告数は119件（前月比1.0、前年比2.6）でした。昨年の10月から12月にかけて連続して増加していましたが、1月からは減少に転じました。2月は再び増加し、その後は横ばいとなっています。菊池12.0、水俣7.0が高くなっています。
3. A群溶連菌咽頭炎：報告数は354件（前月比1.0、前年比1.2）でした。例年並に推移しているようです。菊池12.0、有明11.4が高くなっています。
4. 感染性胃腸炎：報告数は2,528件（前月比1.0、前年比1.1）でした。昨年の9月から12月にかけて増加し、以後は横ばいとなっています。例年並に推移しているようです。八代86.8、有明83.0、菊池81.2、山鹿77.0が特に高くなっています。
5. 水痘：報告数は58件（前月比1.0、前年比0.4）でした。平成26年10月から水痘ワクチンが定期接種となり、以後は例年より明らかに低い値で推移していますが、最近3ヶ月では毎月60件程の発生があり、横ばいとなっています。
6. 手足口病：報告数は13件（前月比1.6、前年比0.1）でした。昨年の7月をピークとして、以後は減少に転じ、11月からは低い値で連続して推移しています。
7. 伝染性紅斑：報告数は263件（前月比0.9、前年比20.2）でした。昨年の春頃から増加し、本年度の1月をピークとして、以後は連続して減少しています。しかしながら、例年より著しく高い値で推移しており、今後の動向に特に注意が必要です。宇城12.0、熊本7.1、菊池7.0が高くなっています。
8. 突発性発疹：報告数は127件（前月比1.2、前年比0.9）でした。例年と同様に推移しているようです。
9. 百日咳：報告数は3件（前月比1.5、前年比0.6）でした。低い値で推移しています。例年並のようです。
10. ヘルパンギーナ：報告数は13件（前月比1.9、前年比0.4）でした。前月比は増加していますが、低い値で推移しています。

11. 流行性耳下腺炎 : 408件 (前月比1.6, 前年比4.2) でした。例年より明らかに高い値で推移しています。前月比も増加しており、今後の動向に特に注意が必要です。有明21.8、菊池20.4、山鹿15.5が特に多いようです。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありませんでした。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数 114 件(前月比 1.1、前年同月 2.1)と多発状況が続いています。地区別では熊本 98 件、菊池 13 件、八代 2 件、有明 1 件の報告です。年齢別では 20～49 歳代にピークがありますが、まだ乳幼児にも散発しています。

STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数は41件 (前月比1.2、前年比0.8) で、前月比は増加し、前年比は減少しています。男女別は、男性17件、女性24件で、女性に多く見られます。年齢は、男性、15～64歳に見られます。女性は15～39歳に見られますが、15～29歳に多く見られます。地域別は、熊本が25件、次いで宇城5件、八代4件、有明3件、御船2件、菊池、天草各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数は14件 (前月比0.9、前年比1.2) で、前月比は減少し、前年比は増加しています。男女別は、男性6件、女性8件でした。年齢は、男性は20～69歳と幅広く見られ、女性も20～70歳以上と幅広く見られます。地域別は、熊本が5件、次いで菊池、八代、宇城各3件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数は6件 (前月比2.0、前年比3.0) で、前月比は、前年比ともに増加しています。男女別は、男性1件、女性5件でした。年齢は、男性は30～34に見られ、女性は20～44歳にみられます。地域別は、熊本6件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数は15件 (前月比0.9、前年比0.7) で前月比、前年比ともに減少しています。男女別は、男性13件、女性2件でした。年齢は、男性は15～39歳に見られ、女性は20～24歳にみられます。地域別は、熊本8件、次いで有明3件、宇城2件、御船、八代各1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :
23件 (前月比1.1、前年比1.5) の報告がありました。熊本17件、八代3件、水俣1件、有明2件でした。年齢は0歳 : 3件、45～49歳 : 1件、55～59歳 : 1件、60～65歳 : 1件、65～69歳 : 2件、70歳以上 : 15件でした。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 :
5件 (前月比1.0、前年比 0.6) の報告がありました。熊本3件、八代1件、有明1件でした。年齢は35～39歳 : 1件、55～59歳 : 1件、70歳以上 : 3件でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症 :
報告ありませんでした。(前月比 - 、前年比 -)

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告ありませんでした。(前月比 -、前年比 -)
2. 無菌性髄膜炎： 7件(前月比0.7、前年比3.5)の報告がありました。熊本7件でした。年齢は1~4歳：3件、5~9歳：2件、10~14歳：1件、25~29歳：1件でした。
3. マイコプラズマ肺炎： 32件(前月比2.3、前年比-)の報告がありました。熊本26件、水俣4件、有明2件でした。年齢は0歳：1件、1~4歳：6件、5~9歳：12件、10~14歳：11件、15~19歳：2件でした。
4. クラミジア肺炎： 報告ありませんでした。(前月比 -、前年比 -)
5. 感染性胃腸炎(ロタウイルスによる)： 71件(前月比1.7、前年比2.3)の報告がありました。熊本53件、水俣11件、人吉5件、有明2件でした。年齢は0歳：12件、1~4歳：45件、5~9歳：12件、10~14歳：2件でした。

届け出対象感染症

- | | | |
|-------|-------------------|-------------------|
| 1類感染症 | ： 報告はありませんでした。 | |
| 2類感染症 | ： 結核 | ： 37件 |
| 3類感染症 | ： 腸管出血性大腸菌感染症 | ： 1件 |
| 4類感染症 | ： デング熱 | ： 2件 (2件とも海外輸入症例) |
| | ： レジオネラ症 | ： 3件 |
| 5類感染症 | ： カルバペネム耐性腸内細菌感染症 | ： 1件 |
| | ： 後天性免疫不全症候群 | ： 3件 |
| | ： 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | ： 2件 |
| | ： 侵襲性肺炎球菌感染症 | ： 2件 |
| | ： 梅毒 | ： 1件 |